令和4(2022)年度　江戸川区立松江第三中学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

学校教育目標	○ 素直で明るい、心豊かな生徒を育てる　（素直で豊かな心） ○ 自ら進んで、よく学びよく働く生徒を育てる （学びと勤労） ○ 責任を重んじ、正義と規律を尊ぶ生徒を育てる（責任と規律）	○目指す学校像・・全ての生徒の学ぶ権利を保障し、全ての生徒の可能性を伸ばす学校 （Leave no one behind 誰一人取り残さない） 全ての教職員が教育の専門家として成長できる学校 ○目指す生徒像・・・実践力のある生徒 他者とのかかわりを大切にする生徒 自己と向き合える生徒 ○目指す教師像・・・共に子供達の成長を願い、学び合い高め合える職場をつくり、絶えず自己の資質・能力の向上に努める教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞ ・ここ数年のコロナ禍でも、生徒たちは落ち着いた学校生活を送り、自主的な取組を数多く進め、学校行事・委員会・部活動等の教育活動も充実している。あいさつや時間を守る等の基本的生活習慣も身についてきている。 ＜課題＞ ・年度により変化はあるが平均学力は都を下回る。（令和4年度全国学力学習状況調査において、国語は全国・都平均だが、数学は－8ポイント）特に数学の下位層へのケアは直近の課題である。・不登校生徒は減少しているが一定数いる。特別な支援を要する生徒への対応も進めている。	

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・小中合同教員研修2回 ・小中連携行事　4回	・学区域児童の選択希望率90%以上	B	A	合同研修は行えていないが、情報共有は常に行っている。今後も継続する。	A	主小学校である一校から、選択希望率100%であった。小中連携の行事も実施でき、今後も連携を強めていく。	新入生の情報交換を密にする。小中連携の行事も今年度以上に連携していく。
	主体的・対話的で深い学びの視点の授業改善	協同的な学びの実践・深い学びの研究（ESD、SDGs、現代社会、生活場面の意識をはかる）	・「共有とジャンプ」の授業デザイン ・学び合い活動の導入	・生徒・保護者学校評価で肯定率90%以上	A	A	①学び合いの場面の設定②発展応用課題の提示③振り返りの場面設定を常に指導案に入れるように心がけている。	A	グループ学習はICT機器、タブレット端末を活用し、より工夫を重ねた。生徒も学び合う喜びを感じている。	引き続き生徒がより安心し、夢中になって学習できる授業をめざす。
	GIGAスクール構想に基づく「生徒が安心して夢中になって学ぶ授業の創造」	一人一台の学習タブレット端末の有効活用	・授業内外の活用の工夫（eライブラリの活用）・生徒とのコミュニケーションツールとして活用	・生徒・保護者学校評価で肯定率90%以上	A	A	昨年度以上に、タブレットが教科の授業・総合的な学習・学活等様々な場面で活用されている。今後も工夫を続ける。	A	生徒の高評価は学校内の使用では92%、家庭での使用は88%であった。保護者の高評価60%をより高めていく。	オンライン授業やリモート面談等をより工夫して行うよう進めていく。
教員の資質向上	教員研修の充実	ICT・タブレット端末を活用した教員の授業力の向上　全教員一回の授業公開	・ICT関連研修 3回 ・ICT活用の研究授業2回	・生徒・保護者授業評価で肯定率90%以上	B	B	タブレットを活用した研究授業を随時実施、成果を共有している。今後も継続いしてく。	A	ほぼ全教科でタブレット端末を使用した授業が展開できている。一層の工夫を心がけていく。	研究授業、授業検討会を、自己の授業に生かすよう取り組んでいく
	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実	・特別支援教育研修年2回 ・個別指導計画の作成	・支援を要する生徒が通常に学校生活送る(状況観察)	B	B	支援委員会を中心とし、対象生徒への支援・対応がより具体的に示すことができている。関係諸機関とも良い連携ができている。	A	対象生徒への支援は継続でき、事態は好転している。SCやSSW、関係諸機関とも連携する場面が増えている。	対象生徒へのきめ細かい対応をSC・SSW、他機関と連携を強め、継続していく。
	働き方改革の推進	教員のワークライフバランス、ウイルビーイング（健康・幸福）を意識した働き方の推進	・時間外労働時間減少 ・定時退勤日設定	・過労による休職者ゼロ ・働く意欲・やりがいの向上	B	B	時間外労働時間は昨年度より減少している。さらにやりがい・働く意欲を向上させる。	B	ストレスチェックで区上位の良い数字が出た。時間外勤務時間も減少傾向にある。	今後も働きやすく、やりがいのある職場にしていく。
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施等による指導の充実と授業力の向上	・定期考査前の補習 ・放課後補習教室	・国・都の学力調査で正答率が都平均以上	B	B	昨年度より数学放課後補習教室がスタートし、生徒も意欲的に参加している。学力調査の分析を進める。	B	全国学力調査で国語はほぼ都平均、数学は都平均に2ポイント近づいた。	授業改善、課題の工夫、補習等様々な側面からアプローチしていく。
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用、地域図書館との連携や、総合的な学習の時間と連携した探究的な学習の充実	・3年卒業研究（学年成果物）の発表・中央図書館訪問	・生徒・保護者学校評価で肯定率90%以上	B	B	全校で中央図書館訪問を実施できた。各学年、読書科・総合の連携で、成果物を完成する取組を継続していく。	A	卒業研究で成果が表れた。課題解決、テーマ学習について生徒の高評価は87%であった。	来年度も図書館訪問を継続する。3年間、探究的な学習を重点的に進める体制をつくる。
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	休み時間・授業における自主的な運動による運動意欲の向上	・生徒・保護者学校評価で肯定率80%以上	B	A	体育祭の演技で、運動意欲が向上している場面が見られた。家庭での自主的な運動を奨励していく。	A	感染対策を講じて体育祭が実施できた。保護者の高評価は90%以上であった。	健康増進・体力向上を目標に体育授業・日常のスポーツに取り組ませる。
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	・オリ・パラ教育を踏まえた3つの視点に関する取組の充実	・オリパラ教育 年35時間 ・パラリンピアンとの交流	B	B	オリパラ掲示物を整備していく。パラリンピアンとの交流を計画する。	B	パラリンピアンとの交流が日程上できなかった。	来年度はパラリンピアンとの交流を実施する。
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	・学びあいの場面を取り入れた授業改善	・全国・都の学力調査で、平均点以上	B	B	タブレット・ICT機器を活用し、ペア学習・グループ学習を効果的に取り入れている。	B	ALTとの授業はおおむね高評価である。スピーキングテストのスコアが都平均より低かった。	授業改善、課題の工夫、補習等様々な側面からアプローチしていく。
	生活習慣づくり	生徒の自主的な生活改善への取り組み	・生活改善習慣、カード ・松三中SNSルールづくり	・生徒・保護者学校評価で肯定率80%以上	B	B	生活習慣改善に向けて、取組を継続する。特にスマホ・SNS時間の管理が課題である。	B	ここ数年、スマホ・ゲームの時間は増え、学習・読書時間が減っている。本校の重要課題の一つである。	タブレット端末を活用した記録・助言を行い、生活習慣の改善にむけて取り組ませる。
相談体制 健全育成の充実	いじめ・不登校等の対応	いじめ・不登校に応じた未然防止と早期対応に関する対応の充実	・アンケート・QUの有効活用 ・1年全員のSC個人面接	・いじめ重大事態発生0 ・不登校全校で4%以下（14人）	A	B	重大事態はゼロだが、件数は昨年度より増加した（すべて解決済み）。不登校の減少が課題である。	A	いじめはすべて解決済み。不登校生徒数はほぼ変わらなかった。	いじめ件数をできる限りゼロにし、不登校生徒の減少を目指す。